

若手職員 座談会 (R5年 Vol.4)

～ 5年目 労働基準監督官 編 ～

兵庫労働局で勤務している5年目の労働基準監督官5名で座談会を実施しました。労働基準監督官は、採用後3年目からの2年間、採用局以外の労働局で2年間勤務します。兵庫労働局で採用され、他の労働局での勤務を終了した5年目の監督官5名が、監督官の業務内容や兵庫労働局について語っていただきました。

Q1：今の業務内容を教えてください。

篠田：私は、総務課の総務係という部署に所属しています。労働局内では、労働基準監督署やハローワークにおいて、様々なパソコンやシステムを使用しており、そのシステムの管理やトラブル対応を行っています。加えて、職員の休暇や勤務に関する相談の対応も行っています。総務という目に見えない裏方の業務になりますが、絶対に無くてはならない業務だと感じています。

藪野：私も総務課の会計三係に配属しています。会計ということで、国の予算を使って、ボールペンから車まで様々なものを購入する業務を行っています。物品を購入する際の契約手順や予算などの調整や、購入した後の維持管理も行っています。

監督業務に比べて、外部とのやり取りは少ないですが、調整力も必要ですし、楽しく取り組んでいます。

澤田：私は、企画課に所属しています。企画課は色々な業務を行っていますが、主に助成金の審査を行っています。

助成金というのは、国が色々なルールを新しく作っていく一方で、そのルールを事業場の方に知ってもらい、スムーズに新ルールに移行してもらうために、一定の条件でお金の支払いを行うものです。監督官の監督業務は、法律に則った労務管理が行われているか確認し、改善を行うよう指導を行います。今の業務を経たことで、事業場の改善に併せて活用できる助成金を示すことができるので、より良い仕組みを提案できるのではないかと思います。

山中：私は、賃金室で勤務しています。名前のお通り、最低賃金を決定する手続きや決定のための調査を行っています。

今日集まっているメンバーの中で、1番監督指導業務に近い内容です。最低賃金の仕組みや考え方が分かったことで、監督業務に戻った際、



(参加職員)

総務部総務課：篠田（5年目）、藪野（5年目）

雇用環境・均等部企画課：澤田（5年目）

労働基準部賃金室：山中（5年目）

労働基準部労災補償課：箕河原（5年目）

すぐく役に立つと思います。

箕河原：私は、労災補償課で勤務しています。労災補償課は、仕事や通勤途中での負傷に対して、治療費など必要な補償を行うものです。今は特に精神疾患の労災について、業務上かどうかを専門的に調査することを行っています。

支給の調査のために、関係者から聞き取り調査などを行い、判断する仕事なので、監督業務とは少し違いますが、様々な人から話を聞き出すという観点では、また監督に戻っても生かれますし、監督業務と労災業務は繋がっているので、監督署の業務を広い視野で見れるようになったかと思います。

Q2：兵庫以外の労働局に2年間異動しましたが、どうでしたか。

澤田：私は、2年間北海道局に異動していました。北海道労働局の中でも、特に管轄が日本一広いと言われる署で勤務していたので、出張で1日200km移動などもありました。

一同：おおー

澤田：管轄の署は、皆さんが北海道でイメージするような、農業や畜産業が盛んで、それに従事する人やその収穫したものを加工する業種の事業場が多く、今まで兵庫では触れてこなかった分野に多く関わられたので、楽しかったです。今の助成金の仕事は「現在行っている業務について、特定の設備を導入することで、時間が短縮される」場合に支給するものもあり、幅広く様々な設備を見てきたので、具体的にイメージしやすく、今の仕事に生かされていると思います。



簀原：兵庫局では、神戸東署で勤務していました。異動先の2年間は、電話の鳴る頻度、管轄の事業場も全く異なり、神戸東署より製造業の会社に行く場面が多かったです。

その業種に監督してみないと分からない知識や実態があるので、他の労働局に行く時間は非常に大事だと思いました。

山中：兵庫局よりも都会の労働局に行っていました。都会なので、大きな事案をやるのかなと想像していましたが、実際は、兵庫に居たときと同じで、小さな事案をコツコツと行っていました。実務経験を積むのであれば、どこでも大丈夫なので、定期異動の際に、この労働局じゃないと！と思う必要はないと思います。

篠田：私も兵庫局にいたときは、比較的規模の大きい署の勤務でした。他労働局の時は、規模の小さい署での勤務でした。

小さい署だと他の課との距離も近く、署全体の業務が見えるので、すごく自分の幅が広がって、成長できたと思います。

藪野：私は本社機能が多く存在する大規模の労働局に2年間異動していました。

一つの措置によって、全国の支店や営業所に波及する可能性のあるような大規模の会社に行くことも多く、より慎重に判断する機会が多かったです。

全国転勤をして、行って良かったと素直に思いますし、2年という期間がちょうど良いように思います。兵庫以外でのやり方やノウハウを学べるのは、すごく財産で、視野が広がると思います。全国転勤がありますが、2年限定なので、前向きに捉えてほしいと思います。

一同：うんうん。

Q3：兵庫局に戻ってきて、改めて感じる兵庫局の良さはありますか。

篠田：人の良さです！総務課なので、監督署、ハローワーク関係なく、色々な人と関わる機会が多いです。職員の方は、良い人ばかりで、すごく聞きやすく、面倒見のいい人ばかりで、すごく仕事がしやすいです。

藪野：私もそう思います。なんかみんな“ほわんほわん”しています。(笑)

一同：(笑)

藪野：いい意味ですよ！(笑) 職員の皆さんが自由を重んじてくれているのを感じます。

先輩、後輩関係なく、仲が良く、でも馴れ合いという感じもないので、自然と良い仕事ができるなぁと感じます。

簀原：私も同じことを感じていました。今の業務は初めてですが、上司は私の意見もしっかり聞いて、寄り添って進めてくれるので、すごく心強いです。

澤田：私も労働局全体として、連携が取れているので、仕事がしやすいと感じます。一度他の労働局を経験しているからこそ、改めて実感できますね。

山中：労働局の規模感、職員数などがちょうど良い気がします。職員間の顔見知りも多く、どこで誰々同士が飲みに行ったと、情報も自然と共有できるので、顔見知りや知り合いが自然と増えていきます。まさに風通しが良い職場！って感じですね。

一同：上手くまとめたなー(笑)

Q4：最後に監督官の魅力を教えてください。

篠田：他の公務員で勤務している知り合いと話すこともあります。よくデスクワーク中心で、と聞きます。監督官は普通の公務員と比べて、外出業務が多く、毎日出張するので、管内事情や新しいものを見るので、飽きずに楽しく取り組みます。デスクワークばかりはなぁ、と思う人には、すごく向いている仕事だと思います。

藪野：唯一の女性ということで、私は、女性の目線から、

女性の職員は多いです。今たまたま周りに子育ての関係で勤務時間を短く勤務している人や、これから出産を控えた人が多く、すごく自分の将来をイメージしやすい状況にあります。

育児休業に入る前も、上司が仕事量やスケジュールを調整して、スムーズに休みに入れるように気にかけてくれます。出産や育児のために退職する選択肢は当然なく、仕事と家庭を両立しやすい職場環境だと思います。



澤田：監督官の業務で、報道されるのは、きらびやかな部分ですが、実際は、1件1件会社に行き、会社の実情を聞き、法律に照らし合わせて、法違反を改善してもらっています。すごく大切な仕事ですが、地道でもあります。

監督官に少しでも興味があるなら、実際に署に来て話を聞いてみてほしいと思います。監督署の見学も受け付けています！

(人事係)：宣伝ありがとうございます(笑)

簀原：私は、1度民間企業での勤務を経て、職場環境を改善したいと思い志望しました。民間の経験があるからこそ、相談者の気持ちも理解できていると思っています。

たくさんの方が関わって、社会ができていくということが頭では理解していたつもりですが、実際に様々な事業場や実態を目の当たりして、真に社会構造を理解できてきたように思います。

想像だけでは理解できなかったような人の苦労や流れが分かり、社会全体を俯瞰して見れるようになりました。そして、たくさんの人と関わることで、改めて人間が好きになったような気がします。

まとめると、監督官の仕事は一言でいうと面白いですよ！

山中：私自身就活の時に1番面白そうな仕事だと思って、監督官を選びました。正直、入庁する際、労働基準法、最低賃金法など一切知りませんでした。研修でしっかり学べるので安心してください。

また、監督官の仕事では、普段普通に過ごしていても見ることができない箇所に入り、様々なものを見ることができると、すごく楽しい仕事だと思います。

あと、一度他の労働局を経て再認識したのは、兵庫労働局の職員間の人が良いことはもちろん、仕事が安定していると思いました。忙しすぎず、暇すぎずに、程よい業務量で、色々な経験をすることができます。業種や事案のバランスが取れているので、常に楽しく仕事できるのではないかと思います。

それに、採用面接の時に新規職員を受け入れてくれる雰囲気を感じました。面接、説明会からウエルカム感があり、その印象は、入ってからも変わりませんね。

(人事係)：ほっ(笑)

一同：とにかく！！兵庫局は、働くに良い所です！！